

環境調査結果のお知らせ

概況

本日、環境調査を行いましたので結果を送付いたします。

全地点の表層で28℃以上となっています。

検鏡の結果、魚類に対して有害なプロロセントラム・シグモイデスが最大8細胞/mL確認されました。また、赤潮原因プランクトンであるメソディニウム・ルブラムが最大2細胞/mL、下痢性貝毒原因プランクトンであるディノフィシス属が最大1細胞/mL確認されました。

柱状採水（0～10mの海水をひとまとめに採水）した海水では、下痢性貝毒原因プランクトンであるディノフィシス属が青瀬山で0.02細胞/mL、大島中央及びヒロウラで0.01細胞/mL確認されました。

ディノフィシス属は、主に二枚貝（食用を含む）を毒化させる恐れがあるので十分注意してください。

今後、飼育魚や海色等に異常が確認された場合は、海水をペットボトル等で採集し、漁協もしくは宿毛漁業指導所にご連絡下さい。

調査点 (透明度/水深) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン			
	深度 (m)	水温 (℃)	塩分	溶存酸素 (mg/L)	コクロディニウム・ ポリクリコイデス	プロロセントラム・ シグモイデス	メソディニウム・ ルブラム	ディノフィシス 属
A 藻津 (-/36.2m) 【09:11】	★ 0	28.4	32.5	7.5	0	1	0	0
	2	27.6	33.5	7.3	0	0	0	0
	5	27.0	33.7	7.1	0	0	0	0.01
	10	26.6	33.7	6.9	0	0	0	0
	15	26.1	33.8	7.0	-	-	-	-
	20	25.5	33.9	7.1	-	-	-	-
B 大島中央 (-/33.1m) 【09:19】	★ 0	28.0	33.0	7.0	0	0	0	0
	5	26.9	33.7	7.2	0	0	0	0
	10	26.4	33.7	7.1	0	0	0	0
	15	25.9	33.8	7.1	-	-	-	-
	20	25.6	33.7	7.3	-	-	-	-
C 小筑紫中央 (-/49.5m) 【09:28】	★ 0	28.0	33.5	7.0	0	0	0	0
	5	27.1	33.7	6.9	0	0	0	0
	10	26.5	33.7	6.9	0	0	0	0
	15	26.0	33.8	6.8	-	-	-	-
	20	25.5	33.9	5.9	-	-	-	-
D 栄喜奥 (-/13.7m) 【09:41】	0	28.1	33.5	7.3	0	5	1	0
	★ 5	27.3	33.7	7.1	0	0	0	0
	10	26.5	33.6	6.8	0	1	0	0
E ヒロウラ (-/24.9m) 【09:59】	0	28.6	32.5	7.1	0	8	0	1
	2	27.5	33.5	6.9	0	0	0	0.03
	★ 5	27.2	33.6	6.9	0	4	0	0.01
	10	26.1	33.9	6.6	0	0	0	0
	15	25.3	33.9	6.3	-	-	-	-
	20	24.5	34.0	5.8	-	-	-	-

調査点 (透明度/水深) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン			
	深度 (m)	水温 (℃)	塩分	溶存酸素 (mg/L)	クロロディニウム・ ポリクリコイデス	プロロセントラム・ シグモイデス	メソディニウム・ ルブラム	ディノフィシス 属
F 青瀬山 (-/15.9m) 【09:48】	0	28.2	33.4	7.2	0	1	0	0
	5	27.4	33.7	7.1	0	0	2	0
	★ 10	26.6	33.7	6.7	0	0	0	0
	15	24.7	34.0	6.2	-	-	-	-

クロロフィル量が極大の深度および、0m、5m、10mの深度から採水した海水の検鏡を実施しています。

★：採水したサンプルの内クロロフィルが極大であったもの

貝毒原因プランクトンのモニタリングのため、藻津及びヒロウラの0m、2m、5mの深度から採水した海水の濃縮検鏡を実施しています。

プランクトンの細胞密度について、小数点第2位まで記載のあるものは、海水100mLを濃縮して検鏡しています。こちらの「環境調査」は、高知マリンイノベーション情報発信システム「NABRAS」(URL：https://kmi-nabras.pref.kochi.lg.jp)においてもご覧いただけます。

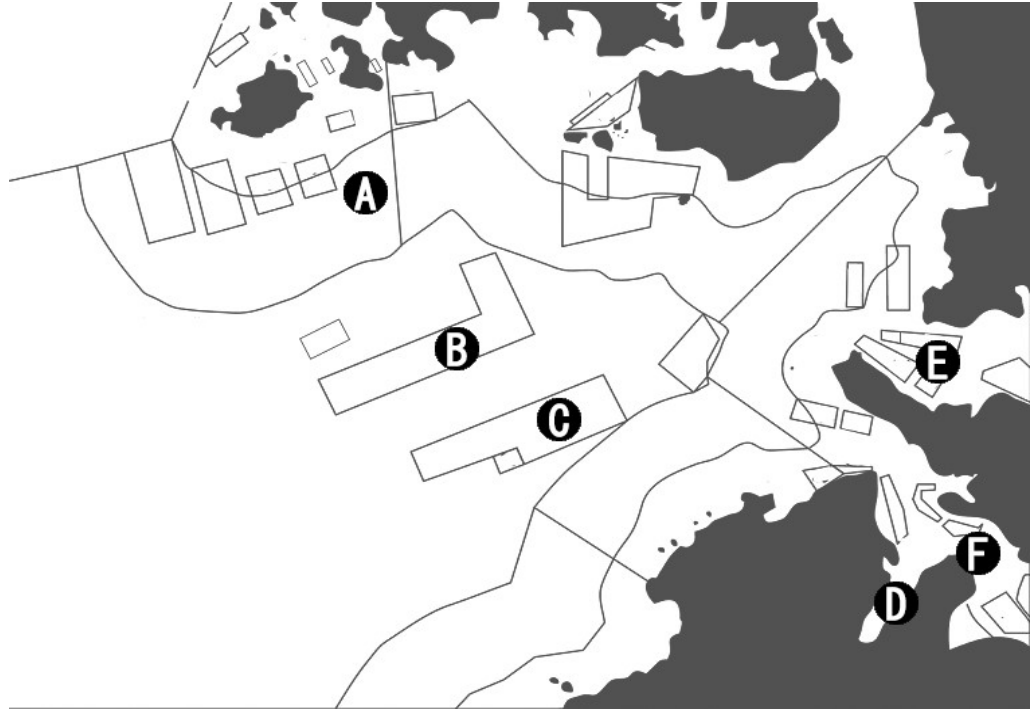
参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準

有害プランクトン	被害	注意基準 (※1)	警戒基準 (※2)	主な赤潮発生時期 ※3
				宿毛湾
クロロディニウム・ポリクリコイデス	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	5～6月

※1 注意基準：餌食いの悪化、警戒基準に達する恐れのある密度

※2 警戒基準：魚類及び二枚貝のへい死並びに二枚貝の毒化が想定される密度

※3 あくまで目安なので、水産試験場・漁業指導所の広報や養殖魚の状態に応じて、慎重な養殖管理をお願いします。



- A: 藻津
- B: 大島中央
- C: 小筑紫中央
- D: 栄喜奥
- E: ヒロウラ
- F: 青瀬山